

# 学校全体で取り組む養護教諭を中心とした学校安全対策の実践

## Practice of the School Safety Measures Led by A School Nurse Wrestling in the Whole School

河村 愛美  
Manami KAWAMURA  
(岬町立深日小学校)

岡田 良平  
Ryohei OKADA  
(岬町立深日小学校)

長根 わかば  
Wakaba NAGANE  
(岬町立深日小学校)

西 泰亨  
Yasuyuki NISHI  
(岬町立深日小学校)

本山 司  
Tsukasa MOTOYAMA  
(東亜大学人間科学部)

保田 智子  
Tomoko YASUDA  
(大阪府岬町教育委員会)

本山 貢  
Mitsugi MOTOYAMA  
(和歌山大学教育学部)

2017年9月15日受理

### 要旨

本稿では、大阪府泉南郡岬町立深日小学校を事例として、急激に児童数が減少する小規模校の児童の生活実態の把握とその改善に向けた取り組みを養護教諭の職務やそれにかかわる校内での諸活動を通して考察した。養護教諭の職務は多岐にわたり、日常の来室者対応に加えて健康診断や保健教育、保健組織活動など様々なものがある。しかし児童数851人以上の大規模校を除き、多くの場合養護教諭は一校に一人しかおらず、一人で様々な保健業務に当たらなければならない。平成23年度の調査によると大規模校の保健室来室者数は42.8人と報告されている。その結果、児童数が増えれば、それだけ来室者対応に多くの時間を割かなければならず、通常の保健業務と合わせると非常に多忙となる。また、生徒指導やケース会議といった個々の児童の案件にもかかわることもある。深日小学校の場合は1日の保健室来室者数は7.8人であるので比較的時間に余裕がある。こうした現状を踏まえて、時間を有効に活用した食育・保健教育の活動やたてわりそうじの企画・実施など、小規模校ならではの養護教諭としての取り組みについて紹介し、今後の課題についてまとめた。

### 1. はじめに

深日小学校は児童数96名(平成29年度7月時点)の小規模校である。全学年が単学級であり、児童数は年々急激に減少している。

保健室来室者数は平成27年度1,423人、平成28年度1,061人で児童が登校する日数で割ると、1日あたり約7.8人がけがや体調不良等の症状を訴えて来室している。(表1)。いずれも5月、9月、冬場の3つの時期に来室者数が多い。5月は運動場などで外遊びや体力測定に向けた取り組みなどでの怪我、9月は運動会の練習等による怪我、冬場はかぜなどの体調不良が主な来室理由である。

平成23年度保健室利用状況に関する調査報告書によると、1日あたりの保健室来室者数は25.8人で、深日小は全国平均の約3分の1である。また、小規模校(全校児童149人以下)では9.1人、大規模校(全校児童500人

以上)では42.8人と報告されている<sup>1)</sup>。このことから学校の規模によって保健室を利用する児童の人数が大幅に違うことが指摘できる。しかしながら、養護教諭は、児童数851人以上で複数配置が認められるが、多くの学校が一人配置の傾向にある<sup>2)</sup>。そのため児童数が多いほど来室者対応に要する時間が長く、深日小学校のような小規模校では、比較的来室者対応にかかる時間が短いといえる。小規模校の養護教諭の職務は、教員の人数が少ないことから通常の業務のほかにも多くの校務分掌を兼務し、保健教育、保健安全に関する組織活動などを中心に出前授業を実施したり、たてわり清掃など学校独自の取り組みにつなげていくこともできるという強みもある。以下では、深日小学校を事例に、表2の保健関係年間活動計画に沿って小規模校の養護教諭の職務と活動内容についてまとめてみた。

表1 保健室来室者数

(人数)

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年度	101	136	147	82	204	155	124	139	78	144	113	1,423
平成28年度	128	152	116	47	121	86	96	92	60	90	73	1,061

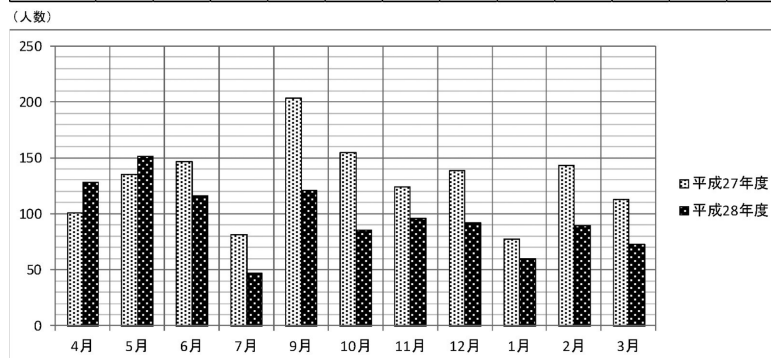


表2 深日小学校の保健関係年間活動計画

	保健目標	保健行事	保健安全の取り組み	保健教育
4月	自分の体をよく知ろう	保健調査 身体測定 聴力検査・視力検査 尿検査 内科・結核健診 健康観察 健康診断事後措置	たてわりそうじ計画作成 施設設備整備 清掃用具準備 食物アレルギー児童管理	保健室の使い方(全)
5月	清潔なくらしをしよう	心臓検診 歯科検診 耳鼻科検診 健康診断事後措置 検尿(予備日) 教職員心肺蘇生法講習	たてわり清掃指導(前期)	トイレスリッパをそろえよう(全)
6月	歯を守ろう・梅雨時の健康に気をつけよう	体重測定 歯科指導 飲料水検査(学校薬剤師) 5年生救急救命講習	交通安全教室 不審者想定避難訓練	水分補給の大切さ(全) 健康なうんち(全) 歯垢染めだし検査(3年)
7月	夏の病気を防ぎ体を鍛えよう	大掃除 治療勧告 校内安全点検 遊具整備	夏休み中の生活指導 合宿時の健康・引率	てあらい指導(1年) 学校薬剤師 変わっていく心と体(4年) 薬物乱用防止教室(6年) 泉南警察 合宿前初経指導(5年)
8月				
9月	運動と休養を心がけよう	夏休み中の健康調査 清掃用具整備 疾病治療状況調査 身体測定		けがの手当ての仕方(全)
10月	目を大切にしよう	視力検査 照明測定(学校薬剤師)	運動会 たてわり掃除指導(後期)	望ましいおやつを食べ方(高)
11月	規則正しい生活をしよう	就学時健康診断 歯科フォロー検診 体重測定	修学旅行時の健康・引率 火災想定避難訓練	正しい姿勢(低) 骨の成長について(高)
12月	冬を健康に過ごそう	未治療児勧告 大掃除 校内安全点検	冬休みの生活指導	
1月	食べ物と栄養について知ろう	身体測定 空気検査(学校薬剤師)	地震津波避難訓練	
2月	健康な心と体を作ろう	年間発育状況のまとめ 疾病事後処置状況調査		たばこの煙に含まれているもの(2年) たばこの害(5年) 学校薬剤師 自然治癒力(4年) 学校薬剤師 好き嫌いをなくそう(4年) 正しいはしの持ち方(1、2年)
3月	健康な生活習慣の反省をしよう	大掃除 安全点検	保健室整備 春休みの生活指導 健康生活の反省	エイズ(3年) 薬物乱用(6年) たばこをすわないで(1年)

身体測定 4・9・1月実施  
体重測定 4・6・9・11・1・3月実施  
安全点検 学期に1回実施

## 2. 養護教諭の職務

養護教諭の職務は、主に保健管理、保健教育、健康相談、保健組織活動の4つに分類することができる<sup>3)</sup>。また、保健室経営計画の作成や保健室の備品管理等も行っている。

### (1)保健管理

保健管理業務は主として、①救急処置、②健康診断、③健康問題把握、④疾病の予防と管理、⑤学校環境衛生の管理がある。

## ①救急処置

救急処置は、日常のけがや体調不良の対応を行っている。その際来室した時間、症状、バイタルサインなど、さまざまな情報を記録し、治癒するまで経過観察を続けている。またけがや体調不良を未然に防止するため、来室した児童に個別の保健指導を行っている。特に休み明けに多い体調不良には、就寝時間が遅いことや、朝食を欠食していることが原因となりうるため、生活習慣を改善するよう声かけを行う。また緊急の場合の校内体制を整え、対応していくために心肺蘇生法講習会を実施している。講習会は、毎年1回町内の全教職員を対象に、消防署職員が行う。昨今、学校水泳での事故が発生している中、心肺蘇生法やAEDの使用法を学ぶことは児童の命を守る上で必要不可欠である。深日小学校では、5年生でも総合的な学習の一環として心肺蘇生法講習を行っている。養護教諭は常に中心的な職務として講習会の企画や運営、児童の学習を支援している。

## ②健康診断

健康診断を計画・実施し、結果の集計、分析等を行っている。また明らかとなった健康課題を元に保健指導を行ったり、「ほけんだより」で家庭に啓発したりしている。深日小では身体計測は、年間6回実施しており、きめ細かく児童の身体の変化を記録する。児童数も少ないことから担任と相談の上、計測前に保健衛生に関する話題などを、学年に応じて心身の変化や成長と結びつけながら指導を行っている。例えば、「良い姿勢」、「睡眠の大切さ」、「上手な歯みがきの仕方」等、さまざまなテーマで行っている。特に深日小では、クラスの児童が全員で保健室に来て、定期的にこうした話を落ち着いて聞く機会を大切にすることで、小規模校の良さを生かしている。

## ③健康問題の把握

毎朝、学級担任が行う健康観察や保健室利用状況を元に健康問題の把握を行っている。特に保健室利用頻度が高い児童に関しては、背景に心身の不安や悩みなどの健康課題が隠れていないか原因を明らかにし、解決に向けて対応していくことが必要となる。昨年度、毎日のように遅刻する児童がおり、その児童には朝食欠食、睡眠不足、長時間のゲーム機の使用など、様々な健康課題があった。担任や管理職と相談し、様子を見て非常の場合は保健室で食べ物を食べさせたり、時間をきめてベッドで寝かせたりと、体調回復のための対応をとっている。児童の健康問題を把握するには学校だけで対応するのではなく、家庭や必要の場合は関係機関と連携していくことが不可欠である。こうした対応も個別に行っている。

## ④疾病の予防と管理

疾病の予防と管理として感染症、食中毒の予防およびその発生時の対応などを行う。冬場は手洗い、うがいの励行を集会で話し合ったり、「ほけんだより」の発行、掲示物などを通じてくり返し行っている。また、疾病の管理として食物アレルギー児童の管理、対応も含まれる。食物アレルギーを持つ児童は年々増えており、学校現場での危機管理対応が重要である<sup>4)</sup>。深日小学校では、児童一人ひとりが安全に給食を食べる事ができるよう保護者とアレルギーの症状や緊急時の対応について確認を行っている。また、学級担任以外の教員が給食指導に入った場合でも対応できるよう、教室内にアレルギーを持つ児童の顔写真を掲示している。さらに、全校児童に食物アレルギーについての保健指導や、教職員を対象に重症な場合のアナフィラキシーショックについての対応策やエビペン(アドレナリン自己注射薬)の打ち方について研修会を企画し実施している(写真1)。



写真1 食物アレルギーの研修会

## ⑤学校環境衛生の管理

学校環境衛生の管理として年度初めに清掃区域の設定、掃除用具の整理、清掃の仕方マニュアルの作成等を行っている。深日の町は淡路島への交通の要衝で、フェリー乗り場があり、大規模な火力発電所や造船所といった施設もあったことから、最盛期の頃は南海電車が難波から直通電車を出していたほどの町である。そのため校舎は、1000人以上を収容できるように建てられている。そうした校舎を清潔に維持していくためには、学年やクラスごとに清掃区域を割り当てるのが難しい状況になってきた。そこで、異学年交流を図ることができるという利点を生かして、たてわり清掃活動を推進している。

校内の掃除場所を見直し、教室やトイレなど毎日掃除をする場所、利用頻度の少ない特別教室は隔日で掃除するなど工夫し、児童を12班に割り振り、それぞれの班に担当教員を配置し、6年生全員をそれぞれの班のリーダーとして1年生から6年生で混成した8人程度のグループで掃除を行っている。実施にあたっては、養護教諭が6年生担任と連携し、6年生の児童と準備



を進める。6年生が下級生を引っ張っていく意識、責任感を持てるように声かけをする。掃除が開始すると、6年生を中心に、高学年が低学年をフォローしてあげながら、協力して行っている。また、班でそうじの目標を立てたり、毎日掃除の振り返りを行ったりする活動も行っている(写真2, 3)。

異学年でそうじを行うことによるメリットは3つある。1つ目は、6年生がリーダーとしての意識を持ち、真剣に取り組むことができていること、2つ目は、担任の先生以外の先生との関わりが生まれること、3つ目は、たてわり掃除が起点となって、さまざまな活動に波及して行っている点である。例えば、平和学習での折鶴の折り方や運動会のリレー種目になるなど、子どもどうしで「教える」―「教えられる」という関係が密になることで、より充実したものとなっている。一方で、実施に当たってたてわり活動による子どもどうしの異学年でのトラブルや不満といった話も出てくる。しかし、非常に有効にたてわり活動を実施している町内の多奈川小学校では、児童の性格や兄弟関係、運動能力まで含めて全教職員で班編成を考えて、清掃や遠足、運動会にも応用することで問題は少ないという。こうした先行実施している学校を参考に独自の対策を模索して実施している。小規模校では単学級という限られた人間関係を異学年の縦軸で結ぶことで大規模校ではできない人間性の教育ができると考えている。深日小では、異学年の縦の関係が学校のひとつの特色であり、小規模校のモデルケースとなっている。



写真2 たてわり掃除の様子1



写真3 たてわり掃除の様子2

## (2)保健教育

保健教育には、学習指導要領に示されている3年生から始まる「ほけん」の授業で行う保健学習と学校全体で行う保健指導に分けられる。保健教育は、授業や身体測定、児童集会、保健室来室時など様々な機会を利用して、児童の健康課題に応じて行っていく必要がある。特に保健教育を行う際には、児童が興味を持てるように視覚的に理解しやすいものを用意し、クイズ形式にして児童が関心を持ちやすいような内容になるように工夫をしている。また、保健教育で使用した教材等は保健室前の掲示板に掲示し、指導後も内容を振り返られるように工夫している(写真4)。

また、3年生から6年生の体育「ほけん」領域の授業では、いくつかの授業に養護教諭が参加し担任と連携して授業を行っている。例えば、4年生の第二性徴の授業では女子と男子の体の変化について、大型パネルなど、保健室にある様々な教材を使用しながら指導する。養護教諭が教室に出向いて授業を行うことで、児童から体のことや保健に関することについて様々な質問が上がり、専門的な立場から指導することができている。5・6年生で宿泊学習に行く際にも女子児童を対象に生理や身体の変化についての知識理解を深める指導も行っている。

食育では、低学年で正しいはしの持ち方について、中・高学年で望ましいおやつを食べ方についての学習に携わった。正しいはしの持ち方については、「おはし名人になろう!」と題し給食センターからはしを借りて、正しい持ち方を学んだり、豆つかみ競争を行ったりした。また豆腐やしょうゆ、きな粉など、様々な食材が大豆でできていることを知り、すりこぎ、すり鉢を使ってきな粉づくり体験を行った。また、学年だより等で授業の様子を家庭に知らせることで、家庭でも正しいはしの持ち方を意識してもらうきっかけとなった。望ましいおやつを食べ方については、実際に炭酸飲料に含まれるものと同じ量の砂糖水を試飲したり、高脂血症になった血液の実験を行ったりした。授業後の児童の感想では、「炭酸飲料に含まれている砂糖の量が想像より多くてとてもびっくりした」、「これからはおやつを食べすぎないようにしたい」などがあり、自分の食生活を振り返る機会となっていた(写真5, 6)。

また、学校薬剤師と連携し、薬剤師の専門性を活かして手洗い指導、たばこの害について、自然治癒力について指導する。学校の教員以外の方からの話は新鮮であり、児童も終始真剣な表情で授業に参加している(写真7)。5年生のたばこの害についての授業の感想では、「私はなぜ、たばこという植物を育てるのか分かりません。育てなかったら誰も吸わないと思います。私は一生たばこを吸わない人になりたいです。」や「たばこがどれだけ体に害があるかよくわかりました。家族に一度禁煙をするように言ってみます。」等の意見が



出てるなど、学校教育が家庭にも影響していく様子が伺えた。



写真4 保健室前掲示板の様子



写真5 低学年の食育「正しいはしの持ち方」



写真6 高学年の食育  
「望ましいおやつを食べ方について」



写真7 学校薬剤師による「てあらい指導」

### (3)健康相談

保健室の落ち着いたいて静かな場所であるという利点を利用して、心身の健康課題の早期発見・早期対応

を行っている。養護教諭が日頃より広いアンテナをはることや、児童が相談しやすい雰囲気を作ることが大切である。また実際に心の健康課題を把握した場合は本人に承諾を得たのち、教職員で周知し、解決に向けて組織で対応している。実際にネグレクト(育児放棄や児童虐待など)が疑われた児童の対応にあたり、地域の関係機関と連携しケース会議を開いたこともある。気になる点については必ずメモに残し、児童の安全を守るよう慎重に対応をしている。学校は児童が1日のなかで最も多くの時間を過ごす場所であるため、「いつもと様子が違う」、「少し気になる」という気づきを大切にし、全教職員で見守っている。それに養護教諭は児童がいつでも保健室を利用しやすくするための心得として、忙しく教務をしている様子を見せたり、感じたりしないように努めている。

### (4)保健組織活動

深日小では、保健安全部の主な活動は校内安全点検、不審者対応訓練、火災想定避難訓練、地震津波想定避難訓練、交通安全教室の企画・実施がある。避難訓練は、警察署や消防署と連携して実施している。交通安全教室では、警察署や運送会社と連携して、交通安全のマナーだけでなく、車やトラックの死角からの飛び出しや巻き込み事故について全校で講習を受けている(写真8)。

また、平成28年度より保育所が併設されたので、災害や地震津波を想定した避難訓練では、保育所と連携しながら合同で訓練を行っている。こうした例年の活動に加え、地震想定避難訓練の後、5年生が社会科の授業で、防災マップ作りに取り組んだ際には、担任や保健安全部の担当教職員とともに避難場所やルート of 安全性について教育委員会や担当部署に確認し、授業で児童の質問や疑問に答える出前授業も企画し実施している(写真9)。その他、特別活動の保健委員会活動では児童集会の機会にむし歯予防劇を行ったり、「ろうかは歩きましょう」ポスターを作製したりと、委員会の児童が自主的に健康安全に関する取り組みができるように養護教諭が中心となり活動を支援している(写真10)。



写真8 交通安全教室の様子



写真9 防災マップ作りの様子



写真10 保健委員会の様子

### 3. 今後の課題

次期学習指導要領解説体育編の中で、体育科改訂の要点として、「自己の健康の保持増進や回復等に関する内容を明確化し、「技能」に関連して心の健康、けがの防止の内容の改善を図るとともに、運動領域との一層の関連を図った内容等について改善すること」と示されている<sup>5)</sup>。特に、第5学年及び第6学年の目標及び内容では、「知識及び技能」で、心の健康について「心の発達並びに不安や悩みへの対処について理解するとともに、簡単な対処をすること」、「心の健康について、課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること」とあり、不安や悩みなどへの対処として、体ほぐしの運動や深呼吸を取り入れた呼吸法などを行うことができるようにすることなど具体的な実践的学習が希求されている。さらに、けがの手当については、具体的に「すり傷、鼻出血、やけどや打撲などを適宜取り上げ、実習を通して、傷口を清潔にする、圧迫して出血を止める、幹部を冷やすなどの自らできる簡単な手当ができるようにする」と

ある。このようなことから、今後は、教員と養護教諭の連携がさらに重要となり、養護教諭の役割が大きく、そのための力量が必要となってくる。

現状、深日小学校では、身体測定時に簡単なけがの手当ての仕方について指導しているが、一人ひとりが実際に手当てができるかどうかは把握できていない。いずれも「知識及び技能」として、求められており、具体的なけがの手当ても示されたことから、どのような形で指導していくか、担任と連携しながら内容に対応した授業を展開し、保健指導につなげていく必要があると考える。

最後に保健室で児童の心身の健康、安全をサポートすることをはじめ、学校環境を安全に整えること、災害や事故から身を守るために安全教育を進める事、保健教育を行うことなど、養護教諭が関わる業務は多岐にわたる。小規模校の利点を活かし、今後も養護教諭という専門的な立場から学校安全を教職員と連携し推進していきたい。

### 謝辞

本稿の執筆にあたって、岬町教育委員会ならびに学校薬剤師の八田守也先生、泉南市役所健康福祉部子育て支援課の白地佐智代さんには大変お世話になった。また、和歌山大学教育学部附属小学校の森本孝子先生には、丁寧なアドバイスをいただいた。この場をお借りしてお礼申し上げる。

### 引用・参考文献

- 1) 財団法人学校保健会：『(平成23年度調査結果)保健室利用状況に関する調査報告書』, p.15, 2011.
- 2) 文部科学省：『教職員定数の算定について 参考資料3』, ([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/029/shiryo/05070501/s003.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/029/shiryo/05070501/s003.pdf))
- 3) 文部科学省：『養護教諭の職務内容等について 参考資料7』, ([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/029/shiryo/05070501/s007.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/029/shiryo/05070501/s007.htm))
- 4) 文部科学省：『学校生活における健康管理に関する調査 中間報告』, p1, 2013. ([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/25/12/\\_icsFiles/afieldfile/2013/12/19/1342460\\_1\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/12/_icsFiles/afieldfile/2013/12/19/1342460_1_1.pdf))
- 5) 文部科学省：『新学習指導要領解説』, P149-153, 2017.